

家庭学習の手引き

～進んで学習する子供を育てましょう～

家庭学習で「学ぶ力」「学ぶ習慣」を育てましょう

これからの社会は、大人になっても新しい知識や経験を活用して、自分のできることを増やすことが求められると言われています。子供たちはそのような社会に飛び込んでいきますので、子供のうちに学ぶ力を育てることが、これまで以上に求められています。小中学校の学習は、子供たちが自立するための基礎となる大切なものです。学校での学習を充実させると同時に、自ら取り組む家庭学習の定着によって、子供は学力を向上させることができます。小中学生のうちに学習習慣を確立しましょう。この「学習の手引き」をお子様と一緒にご覧いただき、家庭学習にご活用ください。

多摩市立多摩第一小学校

1 家庭学習の意義

家庭学習がなぜ必要なのでしょう。家庭学習によって、次のような教育効果が期待できます。

①学習内容の定着

学校で学習したことを家庭で復習することにより、習熟・定着を図ることができます。特に漢字や計算などは、毎日繰り返し練習することで定着していきます。宿題を必ずやり、時間があったら自主学習に取り組めるとよいでしょう。学校で「分かった」ことが家庭での反復学習によって「できる」という自信に変わります。また、予習として次の日の学習内容を見ておいたり教科書を読んでおいたりすることで、理解が深まります。

②脳の活性化

読み・書き・計算を毎日繰り返すことは、脳の活性化につながると言われています。脳も手足の筋肉と同じように、毎日繰り返し使うことで脳神経が太くなり速く動くようになるのです。鍛えれば鍛えるほど脳は発達します。

③学ぶ習慣を付ける

毎日家庭学習を続けることにより、自ら進んで学ぶ習慣が身に付きます。また、毎日続けることでやがて当たり前の習慣になります。少しずつでも継続することが大きな力につながります。低学年のうちから毎日欠かさず家庭学習をすることが大切です。

④がまん強さ・根気・集中力を付ける

家庭学習の最大の敵はテレビやゲームなどの誘惑です。この誘惑に打ち勝つことにより、がまん強さ、根気、集中力を養うことができます。テレビやゲームの時間を決めて学習や読書などの時間をしっかりと確保したいものです。

⑤家族のふれあい

「音読するとき、横で聞く」「本の読み聞かせをする」「学習が分からないとき、そっとヒントを伝える」など、家庭学習をしている子供に親が関わることにより、コミュニケーションが図れます。家族のふれあいの機会が増えることは、子供の精神の安定につながり、心身も頭脳も健やかに育ちます。

2 家庭学習のポイント（保護者の皆様へのお願い）

家庭学習の意義は前述のとおりですが、保護者の方のご協力が不可欠です。

①決まった時間に毎日コツコツと取り組む

家庭学習は毎日続けることが大切です。習い事やお出かけ等で予定が組みにくい日もあると思います。そんな時は、先に済ませるか、テレビやゲームの時間を少なくするなどの工夫も必要となってきます。家族で十分話し合い、実行してください。

②集中して学習する

学力を伸ばすためには、集中して学習に取り組むことが大切です。長時間学習することで効果が上がるとは言えません。短時間で集中して学習することが長続きのこつです。学年×10分を目安に集中して取り組むことを心がけてください。

③家庭学習をする時は、テレビを消す

テレビを見ながら、お菓子を食べながらの「ながら勉強」では効果が上がりません。また、見たいテレビの音が聞こえるような環境では子供は集中できません。静かに学習できる環境をつくるのが大切です。

④整頓された場所で、よい姿勢で学習する

整頓された机に向かって、よい姿勢で学習することが大切です。マンガやゲームなど、気の散るものが近くにあっては学習に集中できません。落ち着いて学習できる環境を整えてあげてください。

⑤子供の頑張りを認め、ほめて励ます

親や教師が、子供の頑張りを認め、ほめたり励ましたりすることにより、自信がつき、進んで学習しようとする意欲が高まります。強制したり、間違いをきつく叱ったりすることは逆効果になります。

⑥学力アップは規則正しい生活から

「早寝・早起き・朝ご飯」は生活リズムの原則です。生活リズムを整えることが学力向上につながります。学校でも家庭でも、生き生きと学習に取り組めるよう規則正しい生活を心がけましょう。

- (1) まず、担任から出る「宿題」に取り組みましょう。
 - (2) 時間が余ったら、自主学習参考例（次ページ以降）の中から選んで取り組みましょう。
〈高学年は、自分で学習方法を考えてもよいでしょう〉
 - (3) どうしても学習に飽きてしまう時は、読書やお絵描きでも何でも構いませんので、必ず机に向かいましょう。「机に向かう」という習慣が大切です。
 - (4) 学習が終わったら、次の日の準備を自分でしましょう。鉛筆を削り、学習用具をしっかりと整え、明日の学習予定をしっかりと頭にいれておくように心がけましょう。

※各学年の子供たちの発達段階に応じた学習の特徴、自主学習例について、次のページ以降にまとめていますので、参考にしてください。

低学年の家庭学習

学習時間の目安

10～20分

基本的な学習習慣をきちんと身に付ける

《学習内容の特色》

- ・「読み、書き、計算」の基礎的・基本的な学習を行う時期です。
- ・繰り返し練習することで、力の付く学習内容がたくさんあります。
- ・「鉛筆を正しく持つ」「時間割や連絡帳を見て学習用具の準備をする」「整理整頓をする」ことも、学習習慣を身に付ける上で大切です。

	宿題以外の自主学習例
国語	音読 ・ ゆっくり、はっきり、大きな声で読む。 ・ 文字をおいながら、間違えずに読む。 ・ 点や丸に気を付けて、言葉のまとまりや文の区切りを意識する。 ひらがな・カタカナ・漢字の練習 ・ 書き順や、字形（とめ、はね、はらい）に気を付けてノートに練習する。 ・ ひらがな、カタカナ、漢字を使って言葉作りや文作りをする。 視写 ・ 教科書等を見ながら、ノートに同じように写す。 日記 ・ 日付、題名を書いてから、その日にあった出来事を書く。 読書 ・ 自分で読んだり、読み聞かせをしてもらったりして本に親しむ。 ・ 心に残ったところや好きな場面を絵や文でかく。
算数	・ 身近なものを使って、算数につながる会話や活動をする。 （数える、合わせる、減らす、長さを測る、かさや重さを量る、アナログの時計を読む など） ・ 学習したことや、間違えた問題をノートにもう一度やってみる。 ・ たし算やひき算、かけ算（2年生）を使った文章題を作って解く。 ・ 書いたり唱えたりしながら、九九の練習をする。（2年生）
その他	・ 生活科の学習内容に関わる活動をしたり、図鑑や絵本で調べたりする。（生き物の観察、飼育・栽培、家の仕事のお手伝い など） ・ 鍵盤ハーモニカの練習をする。 ・ 鉄棒遊びやボール遊びで運動感覚を身に付ける。

中学年の家庭学習

学習時間の目安

30～40分

自分から学習に向かう習慣を身に付ける

《学習内容の特色》

- ・四則計算（ $+$ ・ $-$ ・ $\times$ ・ $\div$ ）の基礎・基本を徹底して学びます。
- ・新出漢字が一番多い学年です。（3年は200字、4年は202字）
- ・地図帳、辞典などを使い、調べ学習をすることが多くなります。

	宿題以外の自主学習例
国語	音読 ・教科書の文章を声に出して正確に読む。 ・様子を思い浮かべて工夫して読む。 文字の練習 ・学習した漢字に送り仮名を付けたり、熟語を作ったりして繰り返し練習する。 ・ローマ字を繰り返し書いたり、読んだりして覚える。 語彙を増やす ・国語辞典などで熟語の意味を調べる。 ・ことわざや慣用句を調べて覚える。 日記 ・伝えたい内容を分かりやすく書く。 読書 ・教科書に出てきた作家の作品や興味のある内容の作品を読む。
算数	・学習した内容をドリルやプリントで復習する。 ・間違えた問題を最後まで直す。 ・学習した図形を描く練習をする。（コンパス、分度器、三角定規などを用いる。） ・自分で問題を作って解いたり、考え方を図や言葉を使って説明したりする。
その他	・学習したことでさらに興味をもったことを調べたり、まとめたりする。総合的な学習の時間の下調べをする。 ・リコーダーの指使いに気を付けて、練習する。 ・身の回りの生き物や環境、地域の特色を観察し、まとめる。

高学年の家庭学習

学習時間の目安
50～60分

自ら予定を立て、自力で学習を進める

《学習内容の特色》

- ・学習内容が多くなる上に、社会や世界に目を向けた学習もします。
- ・筋道立てて考える論理的な内容の学習や抽象的な内容の学習が増えます。
- ・自分で課題を見付け、解決していく学習が多くなります。

	宿題以外の自主学習例
国語	漢字練習 ・正しい「読み」「書き」ができるように繰り返し練習して確実に覚える。 ・学習した漢字の意味について国語辞典や漢字辞典を使い調べる。 言葉 ・国語辞典などで熟語の意味を調べる。 ・ことわざや四字熟語、慣用句を調べて覚える。 ・敬語の使い方を覚える。 作文 ・自分でテーマを見付けて書く。 読書 ・いろいろなジャンルの本を読む。
算数	・学習した内容をもう一度ノートにまとめ直す。 ・文章問題づくり（式と答えも） ・いろいろな解き方に挑戦する。 ・間違えた問題はどこが違うのか考えて直す。
その他	・学習した内容をもう一度ノートにまとめ直す。 ・次に学習する内容を予習する。 ・自分でテーマを決めて調べ、まとめる。 ・テスト前に復習する。 ・ローマ字の練習をする。 ・新聞の記事について、自分の考えや意見をまとめる。 ・総合的な学習の時間の下調べをする。